



平成30年11月14日

各位

会社名 児玉化学工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 豊島 哲郎
(コード: 4222、東証第2部)
問合せ先 経理財務部長 大洞 豪将
(TEL. 03-3279-4900)

平成31年3月期第2四半期累計期間における業績予想と実績値との差異
及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年5月14日に公表いたしました平成31年3月期第2四半期累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正につきましてお知らせいたします。

1. 平成31年3月期 第2四半期連結業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正

① 第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 9,000	百万円 100	百万円 30	百万円 0	円 銭 0.00
今回実績値(B)	8,995	△233	△324	△382	△10.47
増減額(B-A)	△5	△333	△354	△382	
増減率(%)	△0.0	—	—	—	
(参考)前期第2四半期実績 (平成30年3月期第2四半期)	9,322	14	△163	△253	△7.29

② 通期連結業績予想値の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 19,000	百万円 350	百万円 200	百万円 100	円 銭 2.75
今回修正予想(B)	17,500	△300	△450	△500	△13.74
増減額(B-A)	△1,500	△650	△650	△600	
増減率(%)	△7.9	—	—	—	
(参考)前期実績 (平成30年3月期)	19,966	117	△276	△213	△6.01

2. 平成31年3月期 第2四半期個別業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正

① 第2四半期累計期間個別業績予想と実績値との差異(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 5,600	百万円 50	百万円 10	百万円 0	円 銭 0.00
今回実績値(B)	5,292	△253	△325	△343	△9.41
増減額(B-A)	△307	△303	△335	△343	
増減率(%)	△5.5	—	—	—	

② 通期個別業績予想値の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 12,000	百万円 150	百万円 60	百万円 30	円 銭 0.82
今回修正予想(B)	11,000	△350	△450	△500	△13.74
増減額(B-A)	△1,000	△500	△510	△530	
増減率(%)	△8.3	—	—	—	

3. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間は、国内においては、住宅設備・冷機部品事業では、新規住宅着工戸数、並びにリフォーム需要は低調であり、特に当社主力である高付加価値品が低迷し、新規受注も低調に推移したことに加え、主販売先のBCP政策による当社の在る関東地方以外での生産開始の影響が出始めたこともあり、同分野向けの売上高は想定以上に大きく減少しました。それに対応するコストダウン施策は当初計画分だけでは追いつかず、収益が悪化しました。

また、自動車部品事業では、新規に立ち上がった三次元加飾工法やガラス繊維マットプレス新工法による新製品が売上高増加に寄与しましたが、既存の生産設備でも従来製品の販売好調に加えトラック向け新製品での販売増加があり、それに加え相次いで発生した機械故障に対する納期対応のため生産効率が大きく低下するとともに労務費用、外部倉庫、故障修復のための追加費用等のコストが加わり、売上高の増加に見合う利益が計上できませんでした。

このような状況への対応策として、従来の事業分野別の生産販売体制から全社生産部門を生産本部へ集約し、住宅設備事業の生産場所を縮小・集結させる一方、販売が好調な自動車部品事業の生産場所の拡大のため活用させると同時に、新倉庫を建設する等の全体最適な生産体制を一元管理するための組織改正により構造改革を推進中です。下期には順次その効果が手取れるものの効果期間が足りず損失が残りますが、来期にはこの生産体制の構造改革効果が、全て収益に寄与する予定であります。

海外においては、ASEAN地域において景気回復の兆しが見え始め、タイにおいては自動車需要が上向きに転じ、食品容器分野でも新規受注を受け、ベトナムにおける事業も含め概ね計画通り推移致しました。中国においては、事業構造改革を進めておりますが住宅設備関連の新規受注が予想より遅れており売上高が減少し収益が悪化いたしました。その結果、当初の業績予想値を下回る結果となりました。

平成31年3月期通期連結業績予想については、第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ、生産体制の構造改革による現場の整備・改善、固定費削減、及び外部流出費用(倉庫、横持運賃他)の削減等の施策を実行し、収益改善に取り組んでまいります。しかしながら、当第2四半期連結累計期間の業績と市場環境等を勘案し通期の業績予想を修正いたします。

個別業績においても、上記連結業績の修正理由により業績予想を修正いたします。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。